

## ■ 編集後記

種々の学会誌を読んでいると、いろいろな論文にお目にかかります。荒削りなものであっても努力した跡が見られる論文に対しては敬意を払います。一方、数ヶ月の僅かな実験から得た結果を纏めた学位論文に対しては、たとえ、それが体裁良く書かれてあったとしても、腹立たしさを感じます。その論文を書いた人のみか、それを認めた指導者の良識を疑いたくなります。恥ずかしくない論文を投稿するようにお互いに努力したいものです。(太田)

専門分野の論文ですら添削を加えとなるとなかなか難しい。まして専門外の論文となると、内容の要旨を理解するのがやっとなら添削などはとてもおぼつかない。それで、だれが見ても明らかな間違いと思われる個所に付箋をつける程度のことしかできない。

著者ならびに主任教授は編者にあまり期待することなく、各自の責任においてしっかりした論文を書くように御努力願いたいと思う次第であります。

(石橋(真))

創刊当初は掲載論文の少なかった本誌も、大学院の設置に伴って、学位論文の投稿が増加し、内容の充実と共にようやく他校の歯学雑誌とも比肩できるようになった。しかし、本誌にも投稿規定はあるものの、論文の作成やその形式などは各自の投稿者に委ねられている部分が多く、なお一層の改善、改良を要するものと思われる。この点が今後に残された課題の一つであろう。(工藤)

遅い梅雨も明け、例年になく盛大なさんさ踊りの太鼓の音を聴きながらこの踊りが好きだった小原前学長先生の事を偲んでいる内に夏休みの時期になりました。

今号には、新しい素材の応用と新しい咬合診査基準に基づく研究や、日常臨床の場で使用されている歯内療法用小器具の消毒法等についての研究が収録されております。これらの内容は臨床の場で日夜研鑽を積み重ねられておられる方々にとっても示唆に富んだものではなかろうかと思えます。寄稿された方々のご努力に感謝申し上げます。(佐藤)

冷夏を予想された盛岡も、8月に入り急に暑くなってきました。盛岡“さんさ踊り”も連日の好天で、大勢の出入がみられ、夏の夜の祭典も賑わいました。東北の夏祭りが終ると、北国には秋風が吹き始める頃になりますが、秋はまた味覚と勉学の季節です。この夏休みシーズンに体力をととのえて、十分に英気を養い、日頃の怠惰な気分を一掃したいものだと考えております。我々、編集委員の任期も残りわずかになってきました。もうひとふんばりと思っています。会員の皆様からの多数の投稿を期待しております。(名和)

岩手医科大学歯学雑誌  
第13巻 第2号

昭和63年8月25日 印刷  
昭和63年8月31日 発行

発行人 鈴木 隆

発行所 岩手医科大学歯学会  
盛岡市中央通1-3-27  
岩手医科大学歯学部内  
振替口座 盛岡 1358  
電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社  
盛岡市本町通2-13-8